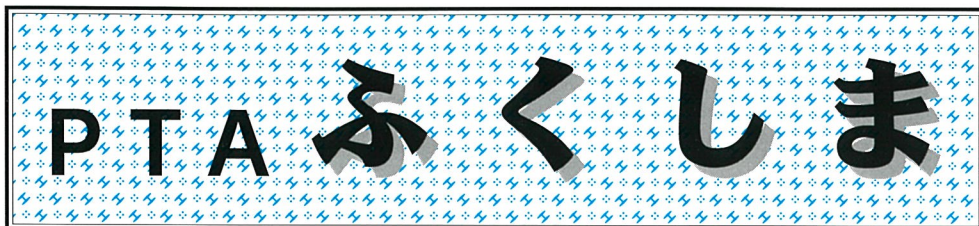


福島県PTA連合会会報
第66号_H17.03.14



第 66 号

福島県PTA連合会

編 集／調査広報委員会

印 刷／泉 印 刷 所

親子清掃活動

植田小学校PTAでは、植田小学校お掃除隊（5・6年児童と全保護者）を結成し、“感謝の心を込めた通学路の美化活動”“軽犯罪からの安全確保”“地域交流”を目的に年間4回の活動をしています。



【提供 いわき市立植田小学校】

《主な記事》

提言－県小学校長会長－ P 2

家庭のしつけ・教育を見直し、充実させるPTA活動 P 2

・棚倉小学校PTA P 2～P 3

・富岡第二中学校PTA P 3

子どもの居場所アンケート、子ども災害事故防止習字・ポスターコンクール P 4～P 5

県P連活動スローガン **子と親とが 共に育つ PTA活動を**

県小学校校長会長の提言

手づくりの楽しさを



福島県小学校長会会長

加藤 隆

私位の年齢の方々はよく、「私たちが子どもの頃はもつと遅しかった。」「今の子どもは昔の子どもと比べてひ弱になっているのでは」といったことを口にされます。今と当時をどの視点で比較するかによって意見の分かれるところかと思いますが、「生活力」という点から見ると、どうでしょうか。

私たちが育った小学校時代（昭和三十年頃）は、戦後の復興期とはいえ、まだまだ生活が不安定な、そして物不足の時代でしたので、否応なしに家族の一員として、その年齢等に応じて、掃除や風呂の準備など、家事の一端を任されていました。そしてそれらの仕事や様々な体験を通して、生活用具・道具の使い方や物事の処理の仕方など、子どもなりに、生活を営んでいくための基礎を培ってきたように思います。遊びの世界においても同様でした。当時は、遊び道具といっても既製品はあまりな

ど、当時の子どもの持ちえなかった今の子ならではの「生活力」を身につけているのも事実です。このように考えてきますと、子どもを取り巻く今の環境を容認しつつ昔の子どもが日常体験の中で培った「生活力」をあわせ持たせることが、今の子どもにとって大切ではなからうかと思えます。

長期休業中の後など、休日の出来事などについての作文を書いてもらうことがよくあります。その作文を読んでみると、「○○行つて楽しかった」と言うものがたくさん目につきますが、中に「家の人と○○作りをして楽しかった」「○○をして楽しかった」「○○ができるようになった」という作文が目立ちます。そしてこのような作文からは前の作文より何倍もの「楽しさ」や「喜び」が読みとれるのです。

子どもは元来心の中に「できるようになりたい・やってみたい」など未知なものに対する好奇心や挑戦する心を秘めているものです。その心をしっかりと受け止め、要求に十分応えてやるのが、大人の責任であり務めであろうかと思えます。既製品でなく、自らの手で獲得した手作りの楽しさを発達段階に即して感得させることが、生活力あふれる心身共に逞しい子どもを育成するための必要条件ではないでしょうか。

家庭のしつけ・教育を見直し、充実させるPTA活動

あいさつ運動、あしたもつとできるように……

「1・2・3運動」の実践

〈棚倉小学校PTA〉

棚倉小学校PTAでは、「誘い合い・助け合い・学びあい」を合言葉に、本部と六つの専門委員会が主体的に活動を行なっておりま

実践2：標語の募集と表彰
あいさつに関する標語を随時児童から募集し、校内に掲示、さらに年度末に優秀な作品を出した生徒を表彰した。

一、活動のねらい

実践3：登校時のあいさつ運動

家庭教育の基本はまず「あいさつがしっかりとできること」という考えに基づき、子ども同士、子どもと大人（親、先生、地域の方々）とのあいさつをとおして、「道徳心」を養いながら、本校の教育目標「えがお、かがやき、はばたく子」をめざそうと考えました。

実践4：ボランティア活動

学年委員会等で、随時企画し、公共施設の清掃などを行なった。

二、活動の内容

《1・2・3運動とは？》

あいさつ運動

- あ① し② た③

もつとできるように。

① あいさつ

② しんせつ

③ たすけあい

実践1：学期毎にプリントを配布して活動の推進を呼びかけた。

一学期→あいさつ運動

◇学年委員会／各学年ごとの行事
◇厚生委員会／PTAレクリエーション、研修旅行他



◇校外生活委員会／親子キャンプ・夏の夜の集い、校外指導他
 ◇地区委員会／環境整備、地区懇談委員会(レクリエーションを含む)
 ◇広報委員会／広報誌の発行
 ◇教養委員会／給食試食会、座談会、手芸教室、料理教室など
 ◇以上の他、会員相互の教養を高め、家庭のしつけや教育を見直す機会として、「よつば学級」を開催し、各種講演会や研修旅行、さらには自主運営の手話サークルや読み聞かせ活動も行なっている。また、二学期に行なわれるふれあいバザーは、品物の販売以外に、町の人材バンクの協力による餅つきや出店、さらには抽選会など工夫が盛り沢山で、地域の方々の楽しみとともに交流の場になっている。

親子で祝う立志式

富岡町立富岡第二中学校 PTA

会長 石井 清

〇はじめに

本会では、会員多数による活動は困難であるため、役員が中心的な活動推進メンバーとなり、組織を生かした運営を目指している。

本事例は、県内最長で継続している第二学年生徒対象の「立志式」の運営を学校側の意図するものをPTAとしてどう支援したのかの活動内容である。

〇活動の実践

一、式への参画し志をより確かなものに

今年度で四十回を数える「立志式」を子どもたちの立場に立って、志をより確かなものにさせ、立志の自覚を今後の成長や学びに保護者としてどう支援していけばよいのかといった観点で活動した。

二、企画・運営面での協力し共に学び合うために

子どもの人生の岐路に当たる「立志式」に参画し、子どもとともに学び合うよい機会にすることをねらい、その趣旨に、保護者としてどうかかわっていけば効果が

期待できるかについて学年役員で話し合い、次の三視点で活動した。

①親子で祝う「立志式」にする。多数の保護者の参加を、役員から呼びかける。

学年・学級だよりを活用する。

②親の思いを文集に載せる。「立志式」とのかかわりをより強くし、子どもたちの決意や夢への希望を助長し、子どもの思いをより育むための親としてどう支援するかといったコメントを添えることにした。

③式終了後の教育講演会を共催とする。趣旨に沿った内容で、学校との共催で、親子で考え今後の指針となるような講演会を設定する。

〇成果

一、保護者の出席は、四割の出席であったが他の諸行事などにも父親の出席が増えており、子どもたちの健全育成に父親が果たす役割の重要性が浸透しつつある現状である。

二、文集から、子どもの成長と新

たな発見に一喜一憂し、親として今までの子どもへのかかわりを振り返らせられるとともに、これからの支援と親としてのあり方を再構築させられる機会となった。

三、講師の選出についての課題は多いが、聴講生徒の姿勢がすばらしく、一つでも多くのことを学ぼうとする姿勢が定着されており、今後の指針となる何かを感じ得たことと思われる。

〇今後の課題

一、私たちは、親として望む子どもの像を常に認識し、子どもの成長と変化を敏感に受け止めながら、子どもとともに学んでいくことが必要だと考える。そのためにも、このことを啓発し、今後役員を中心として活動していきたい。

二、双方向性のある内容であり、親子及び家族の望ましい環境づくりの再構築に大いに役立つ「生き方の葉」づくりに協力して

いきたい。

三、例年、講師の選出が難航している現状がある。限られた条件での講師選出にならざるを得ない。事前から講演会講師についての情報の収集や選定及び依頼について配慮する必要がある。

〇おわりに

子どもの健全育成の推進者は、子どもの親である。そのためにも、学校の教育現場にできるだけ参加し、子ども・教師・保護者がともに学びあうことが大切であると考ええる。



立志式

子どもの居場所に関するアンケート結果について

健全育成委員会

文部科学省では、「子どもの居場所づくり新プラン―地域子ども教室推進事業」を始めました。これは、小学校などを活用して、緊急かつ計画的に子どもたちの居場所を用意する「地域子ども教室推進事業」や、子育て学習の全国展開による学習機会の充実及び相談体制を整備し、ふれ合いの中で子どもたちを育ていくことをねらいとして展開するものです。そのために、安全で安心して活動できる子どもたちの居場所（活動拠点）の設置、ここでは、地域の大人たちがスポーツや文化活動など様々な体験活動や地域住民との交流活動を行います。この地域と家庭と学校が一体となつての活動をととして、子どもたちの思いやりや行動力、協調性、前向きに生きていく力など心の豊かさを育てていくことを目指しています。

このような実情を踏まえ、県PTA連合会健全育成委員会では、子どもたちの土曜・日曜日の生活状況を探り、今後のPTA活動の参考にするためにアンケートを実施しました。その結果の概要をお知らせします。なお、ホームページにもありますのでアクセスしてください。

- ・調査対象校 県内九十市町村立小学校から一校抽出（福島・郡山・いわき市は二校）
- ・調査対象学年 全学年
- ・調査実施期間 平成十六年十一月～十二月
- ・調査協力校数 八十五校
- ・回答児童数 一万七千三百七十四名

アンケート結果の概要

I 土曜日の過ごし方

子どもたちの土曜日の過ごし方を次の六項目より選択していただいた。

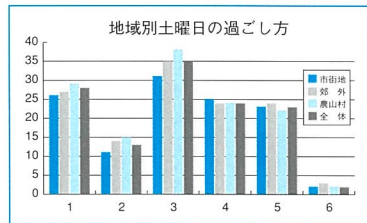
- 1 スポーツや文化的クラブ等に参加している。
- 2 地域の催しごとに参加している。
- 3 主に、家庭で過ごす。
- 4 主に、友達と遊ぶ。
- 5 父や母と一緒に過ごす。
- 6 その他

これらの選択状況を表したのが、次の棒グラフである。

- 6のその他の事例としては、各地域とも、
- ・下学年は、祖父母の家、児童館、

親戚の家、習いごと等である。

●上学年は、塾、習いごとが多く、一人でとか兄弟で過ごすものもいた。ごく少数であるが外出すると回答したものもいた。



●本調査をして意外であったのは、「地域の催し」に参加する児童の割合が、各地域とも低かったことである。学校完全週五日制への対応ということ、各地でいろいろなイベントが実施されていると思われるが、予想より低かったことは

残念である。

家庭で過ごす子どもと友達と遊ぶを併せると、半数以上となる。どんな過ごし方をしているのか、どこでどのような遊びをしているのかなど、親としては把握している必要があると考える。

II 日曜日の過ごし方

土曜日と同じ項目・内容で実施した。1は、スポーツや文化的クラブ等、2は、地域の催し、3は、家庭、4友達、5父や母と一緒に、6その他である。

回答に基づいて集計し、棒グラフに表したものを次ページに載せたのでご覧ください。

第28回子どもの災害事故防止習字・ポスターコンクール

年末年始のご多用の時期に開催し、関係の先生方にはご迷惑をおかけしておりますが、今回も温かいご支援とご協力を頂き開催することができました。心より感謝申し上げます。

また、二月十九日（土）から三月六日（日）の入賞作品展示会にも、多くの皆様に観て頂き本事業のねらいが達成できたと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

審査会の講評から（課題のみ記載します。）

- 習字―氏名を正しく書いていない。・氏名も作品の一部であること
- ・位置と大きさ。・行書の特徴の理解を。・行書の基礎基本としての筆遣い
- ポスター―文字の大きさや字数に工夫

習字の部入賞者

小学校

◆最優秀賞《二年》佐久間菜緒（白河三）

《二年》宮下満里菜（小名浜一）

《三年》木村詩央里（瀬上）

《四年》三戸美紀（鹿島いわき）

《五年》古川紗也子（二本松南）

《六年》伊藤和輝（磐崎）

◆優秀賞《一年》金成宏美（小名浜二）

藤橋 愛（小高）塚原彩音（本郷二）

《二年》樋田 渉（荒館大）

樂 恵（平一）室井寿文（門田）

《三年》相馬紫穂（棚倉）阿部智貴（立子山）

佐藤舞貴（中畑）山ノ内大貴（城西）

菅家あかり（久ノ浜二）

《四年》伊藤 茜（磐崎）坂本千晶（近津）

穂積華奈（五箇）植田愛美（好間一）

柳沼克樹（宮城）《五年》

高木菜央（磐崎）片桐大輔（五箇）

高木美紗貴（庭塚）鈴木美里（城

西 原 遥子（謹教）《六年》大輪彩加（五箇）

山内理香（神指）猪狩まどか（久ノ浜二）

比企瑞貴（棚倉）木村紗友里（瀬上）

◆優良賞《一年》古川怜奈（門田）

古内琴美（滑津）渡邊泰志（小原田）

森本元太郎（汐見が丘）《二年》本

名理紗（川南）金子和香那（白河三）

松井みなと（泉）鈴木結雅（小高）

《三年》鈴木桃香（須賀川二）

辺見みずほ（白河三）吉田奈緒美（泉）

酒井彩妃（五箇）鈴木貴未華（城北）

服部亜海（原町二）藤橋美紀（小高）

《四年》渡邊葉優（小名浜二）

花積由佳（上三宮）塩田夏葉（吉子川）

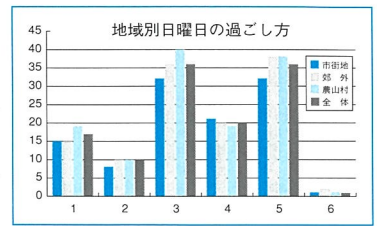
遠藤夕佳（久ノ浜二）築山みさと（須賀川二）

吉田佳代子（泉）遠藤真佑子（永和）

《五年》大熊沙里（塩川）山下綾菜（小高）

山際萌音（汐見が丘）上野由惟（吉子川）

飯島史帆（好間二）村上晴香



過ごすであ
る。6 その他
の過ごし方
について
は、土曜日
と同様であ
った。また、
少数である
が父母と仕
事場に行く

児の希望が多い。希望する運動種目
も多岐にわたっている。ボール運動
系ではテニス、バドミントンを始め
多くの種類があった。陸上運動では
マラソンが多く、水泳の希望者も多
数あった。地域による特徴としては、
柔道、空手、剣道、ゴルフ、スキー、
ローラースケート等々の回答があっ
た。

ター、ボウリング、アルバイト等で
あった。
これらの回答結果から、子どもの
健全育成を推進するためのいくつか
の方策が見えてきたように思われ
る。

◆全体考察
●スポーツ活動にあつては、行き過
ぎ(子どもが疲れから体調を崩して、
月曜日に学校で寝ている等の例も)
の様子もあると聞かれます。中学校
では、土曜日は部活、日曜日は家庭
に返す日と決めていきます。小学校で
も参考にしたいですね。

◆中学校
◆最優秀賞《一年》小川千晶(高田
二)《二年》兼子恵里奈(白河二)
《三年》栗山千佳(須賀川二)
◆優秀賞《一年》塚原康代(船引)
《二年》江花由希子(坂下二)《三
年》松本大知(高田二)
◆優良賞《一年》坂本由紀(沢田)
《二年》郷 紫織(長沼)《三年》
寺本直輝(行健)

3と5の回答を地区別にみると、
回答割合は、ともに農村↓郊外↓市
街の順で、農村部ほど父母との触れ
あいが多いとみられる。
問題は、1のスポーツや文化的ク
ラブに参加している児童の割合が、
土曜日の二十八%に対し、日曜日は
十七%と減少しているが、これへの
参加が土・日と連続して参加してい
るのかは気になることである。(子
どもの生活のリズムという点から)

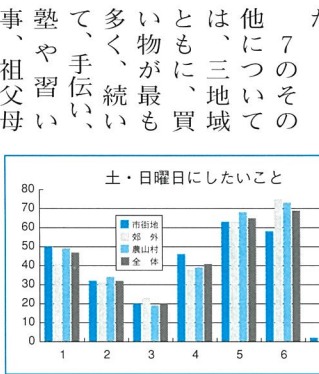
6の自分の好きなことの内容は、
地域性がみられず同様の回答であつ
た。下学年児の「ままごと」を除け
ば、ゲーム、パソコン、読書(漫画も
含む)、TV(ビデオも含む)、料理、
絵描き、釣り、ペットと遊ぶ、工作
(プラモデルを含む)、登山等々。好
きなことではないが、寝る、ゆっく
り休む、ごろごろしている等の回答
が目立っ

◆P主体の居場所づくりに向けて
●友だちと遊びたい、自分の好きな
ことをしたい。という多くの子ども
の願いに、PTAは、親は、どう応
えるべきかを考える必要があります。
す。

◆中学校
◆最優秀賞《一年》小川千晶(高田
二)《二年》兼子恵里奈(白河二)
《三年》栗山千佳(須賀川二)
◆優秀賞《一年》塚原康代(船引)
《二年》江花由希子(坂下二)《三
年》松本大知(高田二)
◆優良賞《一年》坂本由紀(沢田)
《二年》郷 紫織(長沼)《三年》
寺本直輝(行健)

◆最優秀賞
根本祥李(鏡石 一年)
◆優秀賞
清水麻未(小名浜二二年)
◆優良賞
平 育実(福島四 三年)
※なお、佳作入選者氏名並びに最優
秀賞の作品は、四月発行の「安全
互助会報告書」に掲載します。

Ⅲ 土・日曜日にしたいこと
複数回答可として、次の項目・内
容で調査をした。
1 スポーツをしたいか。したい人
はどんなスポーツをしたいか。
2 自然観察や体験活動をしたい
勉強を
3 家族と一緒に
4 友達と遊びたい
5 自分の好きなことを
6 その他
7 その他



7のその
他について
は、三地域
ともに、買
い物が最も
多く、続け
て、手伝い、
塾や習い
事、祖父母
の家、いとこの家、掃除、家事等々
である。
比較的小数はあったが、温泉、
旅行、映画、一人遊び、ゲームセン

◆小学校
◆最優秀賞《二年》岡部慧也(田口)
《二年》齋藤栄凛(平石福島)《三
年》角田千春(白河三)《四年》細堀

◆中学校
◆最優秀賞
根本祥李(鏡石 一年)
◆優秀賞
清水麻未(小名浜二二年)
◆優良賞
平 育実(福島四 三年)
※なお、佳作入選者氏名並びに最優
秀賞の作品は、四月発行の「安全
互助会報告書」に掲載します。

◆小学校
◆最優秀賞《二年》岡部慧也(田口)
《二年》齋藤栄凛(平石福島)《三
年》角田千春(白河三)《四年》細堀

◆中学校
◆最優秀賞
根本祥李(鏡石 一年)
◆優秀賞
清水麻未(小名浜二二年)
◆優良賞
平 育実(福島四 三年)
※なお、佳作入選者氏名並びに最優
秀賞の作品は、四月発行の「安全
互助会報告書」に掲載します。

◆小学校
◆最優秀賞《二年》岡部慧也(田口)
《二年》齋藤栄凛(平石福島)《三
年》角田千春(白河三)《四年》細堀

◆中学校
◆最優秀賞
根本祥李(鏡石 一年)
◆優秀賞
清水麻未(小名浜二二年)
◆優良賞
平 育実(福島四 三年)
※なお、佳作入選者氏名並びに最優
秀賞の作品は、四月発行の「安全
互助会報告書」に掲載します。

中越地震義援金募金ありがとうございました

◆募金総額 四百十万五千四十四円

◆募金協力単P数 二百十六単位PTA

●福島 笹谷小、水原小、瀬上小、佐倉小、蓬萊小、蓬萊東小、金谷川小、庭塚小、南台小、平野小、清水中、信夫中、蓬萊中、北信中、福島養護、福大附属養護 ●達南飯野小、大久保小、青木小 ●伊達 半田釀芳小、堀本小、藤田小、山舟生小、伊達崎小、大田小、五十沢小、梁川中 ●安達 二本松南小、石井小、本宮まゆみ小、岩根小、白岩小、北戸沢小、和田小、南戸沢小、岩代中 ●郡山 安積三小、片平小、喜久山小、赤津小、芳山小、富田西小、福良小、穂積小、鬼生田小、小山田小、桃見台小、小原田小、明健小、桜小、永盛小、高野小、御館小、河内小、橋小、湖南中、二瀬中、郡山一中、郡山三中 ●岩瀬 須賀川三小、大里小、白江小、広戸小、湯本小、長沼東小、鏡石二小、大森小、白方小、小塩江中、仁井田中、天栄中、稲田中 ●石川 中谷二小、蓬田小、山白石小、里白石小、南山形小、沢田小、沢田中、石川小、泉中 ●田村 岩江小、大久保小、門沢小、美山小、牧野小、西向小、船引小、緑小、瀬川小、中郷小、中妻小、春山小、三春中、大越中、小野中、船引中、要田中、桜中、移中、郡路村P連 ●西白河 五箇小、滑津小、吉子川小、中畑小、泉崎中、白河中央中、中島中 ●会津若松 城北小、松長小、神指小、大戸小、若松二中 ●北会津 山濁小、翁島小、猪苗代小、東中 ●耶麻 岩月小、慶徳小、高郷小、新郷小、奥川小、群岡小、塩川小、熱塩小、西会津中、喜多方二小、喜多方三小、会北中 ●両沼 広瀬小、八幡小、若宮小、金山小、柳津小、三島小、三島中、坂下一中、坂下二中、湯川中 ●大沼 本郷中、藤川小、高田一中 ●南会津 針生小、荒海小、館岩小、南郷二小、南郷一小、只見小、明和、田島中、只見中、明和中、檜沢中 ●相馬 石神一小、鹿島小、鳩原小、大野幼小、原町二中、飯館中、中村二中 ●双葉 双葉南小、川内

平成17年度県P行事予定

月	主 な 行 事
6	評議員会 6日(月) 小中学校別課題研修会 30日(木)午前 理事会・常置委員会 30日(木)午後
7	役員・総務委員会合同会 12日(火)
8	日P研究大会愛知大会 26日(金) ・27日(土) 郡市P母親代表研修会 19日(金)
9	東北P北村山大会(山形) 10日(土) ・11日(日)
10	理事会・常置委員会 14日(金) 県P研究大会二本松大会 15日(土) ・16日(日)
11	県教育長との懇談・要望 日時未定 県議会各派への要望 //
1	理事会・常置委員会 25日(水)
2	評議員会 24日(金)

※会報発行は、7月、12月、3月の3回です。

小、榎葉北小、榎葉南小、広野小、双葉中、広野中、葛尾中 ●いわき 平二小、平三小、平四小、平六小、中央台東小、中央台南小、大野一小、小川小、小玉小、川前小、中、内町小、綴小、高坂小、差塩小、中、小名浜一小、鹿島小、永井小、中、江名小、永崎小、勿来二小、川部小、藤原小、沢渡小、菊田小、田入一小、田入一小荷路夫分校、上遠野小、長倉小、平一中、平三小、四倉中、植田東中、玉川中、泉中、植田中、錦中、高野小、内郷三小、湯本二小、石住小・中、東日本国際大附属昌平中学・高校、湯本二小、磐崎小

県P連のお願いが遅れたものですからすでに赤十字社・福島民報社・福島民友新聞社等に義援金を届けた学校(単位PTA)が多数ありました。
なお、本会では、新潟県小中学校PTA連合会に送金しましたが、全国からの義援金は二億四百五十七万九千円となっているそうです。(一月末日)この他、励ましの手紙、色紙、折り鶴、文房具、生活用品等々の支援物資も届いています。
ありがとうございます。

編集後記

PTA広報紙・学校新聞コンクールに応募ください

(学年・学級・児童会・生徒会等も含む)
日本PTA広報紙コンクールへの応募が、今回から年2回以上発行も対象となりました。(今までは3回以上発行が条件)

○締め切り 3月末日
○送付先 〒960-8648 福島市柳町4-29
福島民友新聞社事業本部
「新聞コンクール係」

安全互助会から

PTA安全互助会への加入手続き(日程)が平成18年より変わります。

今年までは、各学校に加入案内を4月に送付し、学校からは5月中旬までに加入の有無を報告いただき6月中旬に会費を納めていただいていたのですが、平成18年度より加入手続きの日程が変更となります。

詳細については、改めて平成18年度加入案内時にご案内させていただきますが、次のような日程の流れとなる予定です。

平成18年1月に加入案内状の発送、学校では3月までに加入有無を県P連に報告、その後、加入数に変動があった場合は4月末日まで県P連に再度報告、5月末日までに会費を納金する。という日程になります。

今からこの日程に対応できるよう、各学校でご検討くださいますようお願いいたします。

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 **共栄火災海上保険株式会社**

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507 FAX 024-523-3509